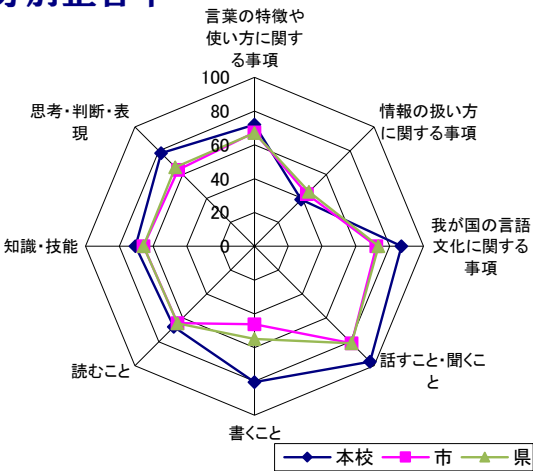


宇都宮市立東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.0	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	39.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	87.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	96.7	81.2	81.2
	書くこと	80.4	46.2	54.9
	読むこと	67.4	64.3	64.5
観点	知識・技能	70.4	65.7	65.7
	思考・判断・表現	78.0	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均を4.9ポイント上回っている。 ○第3学年に配当されている漢字を正しく読む設問や、ローマ字で表記されたものを正しく読む設問においては、いずれも県の平均を上回っている。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく書く設問において、3問中2問で県の平均を下回っている。	・漢字を読む力、ローマ字表記を読む力は概ね身に付いてきていると思われる。今後も基礎・基本の徹底を図り、漢字を正しく読んだり書いたりできるようにしていく。その際、単純な漢字の練習をするのではなく、間違えた漢字だけを練習したり、熟語を調べたり、熟語で漢字練習をしたりするなど、工夫して取り組めるようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均を6.6ポイント下回っている。 ●国語辞典に書かれている言葉の意味を正しく選ぶ設問において、県の平均を6.6ポイント下回っている。	・今後は、国語辞典を使う機会を増やすとともに、ただ単に国語辞典を引くのではなく、言葉がもつ複数の意味について知らせ、正しく選べるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均を13.6ポイント上回っている。 ○漢字のへんとつくりを正しく組み合わせる設問において、県の平均を13.6ポイント上回っている。	・漢字を学習する際に、へんやつくり、かんむりやたれなどの部首についても同時に指導してきた成果の表れである。今後も、漢字を学習する際に、漢字の部首についても指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均を15.5ポイント上回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問や司会者の話し方の工夫について捉える設問など、全ての設問で県の平均を上回っている。 また、自分の考えを理由を挙げながら記述する設問においては、正答率が100%であり、県の平均も16.7ポイント上回っている。	・話の中心を考え、文章の構成を工夫しながら話したり、聞いたりできるように学習を進めてきたことの表れである。今後も話す・聞く学習の際は、声の大きさや速さ、強弱など、声の出し方のみならず、話の中心や話の構成に気を付けながら話せるように、学習を進めていく。
書くこと	平均正答率は、県の平均を25.5ポイント上回っている。 ○文章を書く際、指定された長さで書いたり、指定された段落構成で書いたりするなど、出された4つの条件のうち、4つ全てで県の平均を20ポイント以上上回っている。	・長さや段落構成など、条件に合わせて書く学習を進めてきた成果の表れである。今後も、行事作文など、機会を捉えて書く学習を多く設け、自分の意見と理由を区別して書いたり、書き出しや題名などを工夫して書いたりするなど、様々な条件で書けるように指導を継続していく。
読むこと	平均正答率は、県の平均を2.9ポイント上回っている。 ○説明的文章の叙述を基に文章の内容を捉える設問など、4つ全ての設問で県の平均を上回っている。 ●文学的な文章の叙述を基に登場人物の気持ちや場面の様子について捉える設問において、4つの設問のうち3つの設問で県の平均を下回っている。	・説明的文章の読み取りについては、力が付いていると考えられる。文学的文章の読み取りに課題があるので、登場人物の気持ちや場面の様子について、具体的に想像できるように学習を進めていく。その際、勝手に想像するのではなく、叙述を基に想像するように、児童同士の解釈を伝え合い、妥当性を検討する機会を増やしていく。